

令和元年度 学校評価 自己評価書

あま市立伊福小学校

1 本年度の目標

(1) 教育目標（学校経営案より）

知・徳・体の調和のとれた人間形成を図る。

【知】自ら学び、進んでやり通す児童

【徳】思いやりがあり、助け合う児童

【体】明るく、たくましい児童

(2) 本年度の重点努力目標（あま市教育立市プランに基づく）

ア 確かな学力の定着をめざし、一人一人の個性が生きる学習活動の充実を図る。

- ・ 学習規律の確立（チャイム着席、学習姿勢・家庭学習の習慣化）
- ・ 言語活動の充実（読書活動、しゅびータイムの充実）
- ・ わかる授業の工夫（基礎基本の徹底、学び合い活動の推進、めあてと振り返りの意識づけ）
- ・ 意欲・主体性を高める工夫（学び方を学ぶ、ICTの活用、問題解決的な学習）

イ 教育財産の継承・発展及び新しい教育財産の創造をめざす中で、豊かな心や健やかな体を培う。

- ・ 児童会・委員会活動の充実（主体性、責任感の育成）
- ・ 各種競技会への意欲的な参加（達成感、自信と自己肯定感を高める）
- ・ 運動会、合唱発表会等の学校行事の充実（表現力、協調性の育成）

ウ 働き方改革を進め、心身の健康を保ち、持続可能な教育活動をすすめられるようにする。

- ・ 授業力向上研修を推進し、効率的な教材研究と児童の学力向上との両立
- ・ 継続的な行事や業務の見直し、ライフ＆ワークのバランスのとれた生活
- ・ 風通しのよい職場、個性を生かし、補い合い、助け合える職場環境

エ コミュニティスクールとして、家庭や地域との連携を進め、信頼と協調が得られるように努める。

- ・ 各教科や総合的な学習などへの地域人材の活用（JA・地域コミュニティ・ボランティア）
- ・ 学校からの情報の発信（ホームページの充実）
- ・ PTAと各団体との連携した取組の充実と発展

オ 安全教育の充実を図る。

- ・ 安全・安心体制…見守り隊の維持・発展、緊急連絡体制の整備・活用、自転車や登校時の交通マナーの向上、学校防災教育の充実
- ・ 環境整備…心を育む校内環境の美化・整備

2 自己評価の実施体制

(1) 調査時期 令和2年1月18日（土）～26日（日）

(2) 調査項目 別紙資料のとおり

(3) 調査対象 有効回答者数／対象者数

児童225名／231名 保護者 254名／259名 教職員21名／21名

3 調査結果 別紙資料のとおり

4 考察【児童・保護者・教職員の総括的考察】

(1) 全体的には、昨年同様ほとんどの項目で児童・保護者とも80%以上が「よくあてはまる」「ややあてはまる」という肯定的な回答を得ることができた。特に保護者に注目すると、学校や学年の予定、参観する機会、事務連絡、交通マナー、校外での活動、学級での生活、外遊び、合唱発表会、職員の礼儀、勤務時間管理、校外・校内安全などについての項目で90%以上と高い評価を受けた。

(2) 学校と家庭との連携については、本年度から新設されたコミュニティスクールとしての評価は、「よくあてはまる」が34%と低い。地域との連携の様子をホームページや学年通信でアピールしているものの、コミュニティスクールとしての活動であることをもっと分かりやすく伝えていきたい。

- (3) 児童の生活については、ほとんどの児童が学級の中では友達と仲良く生活していると答えている。挨拶については、校内では朝だけでなく昼や夕方よく教員とすれ違った際に気軽に交わしている。今後は、家庭や地域の方へも積極的に挨拶やお礼などの言葉がけをするよう指導していきたい。
- (4) 授業については、来年度から新学習指導要領が本格実施されるが、どの項目も児童が感じる評価が高い。授業改革が進んでいる証拠といえる。ただし教職員の評価が低いのは、まだまだ道半ばであると感じているからであろう。保護者へも授業参観を通してもっとアピールする必要がある。幸いにも、タブレットやデジタルTV等の寄贈により、ハード面は整いつつある。それを起爆剤にICT教育を充実させ、本校の目玉となるよう育てていきたい。
- (5) 学校行事については、体育館の吊り天井工事のため運動会の半日開催と合唱発表会の時期の変更が行われた。厳しい状況ではあったが、児童や教職員の満足度が高い結果となった。限られた条件の中で考え、よりよい発表をめざし質の向上に努めた結果である。特に合唱発表会では、質の高い歌声を披露でき、保護者の中からも「レベルが上がった」との声が多く聞かれた。本校の特色として合唱が認識されつつある。
- (6) 教職員に対しては、本年度から新しく「勤務時間の管理」に関する質問を行ったが、まだまだ十分とは言えない。一方で教育に熱心に取り組み、子どもの相談にも丁寧に対応する職員への評価はかなり高い。働き方改革の一つの目的が、子どもと接する時間の確保であるため、よい結果が出てきていると思われる。
- (7) 安全・施設管理については、見守り隊やながぐつの会、PTAなどの協力を得ながら進めている取り組みが高く評価された。清掃状況については、施設の老朽化が進み、なかなかきれいにしても分かりにくい面があるが、保護者からはおおむね良いとの評価をいただいた。施設や備品については、本年度は寄付によりかなり充実した。いただいた物については、十分活用してよりよい教育を行ってきたい。

5 成果と課題

《成果》

- (1) 一人一人の先生方の丁寧で粘り強い日々の指導のおかげで多くの児童が学級での生活を楽しくしており、友達関係も概ね良好なようである。今後も一人一人を大切にしたいきめ細かな対応に心がけていきたい。
- (2) 主体的、対話的で深い学びの授業改革は、児童から一定の評価を得ている。来年は、新しい教科書のもとで引き続き授業改革を進めていきたい。
- (3) 運動会の半日開催と合唱発表会の時期の変更は、保護者の理解が得られた。また、新しい取組の中で、児童や教職員の満足度が高かった。特に合唱発表会は、昨年と比べレベルが上がった。この積み重ねが本校の新しい特色となっていくものと思われる。
- (4) 児童の安全確保については、見守り隊やながぐつの会、PTAと連携して対応していることが、高く評価された。清掃状況については、老朽化が進む校舎ではあるものの、保護者からはおおむね良いとの評価をいただいた。

《課題》

- (1) コミュニティスクールに対する保護者の理解が低い傾向にある。
- (2) 働き方改革の状況が保護者にあまり伝わっていない。
- (3) 寄付していただいたタブレットやデジタルテレビを今後積極的に活用していく。

6 改善策

- (1) 学校ホームページや学年便りで、コミュニティスクールに関する行事を分かりやすく伝えるとともに、さらなる開かれた学校を目指して、教職員の意識改革を図っていきたい。
- (2) 子どもと接する時間の確保による効果を、教職員一人一人が伝える努力が必要である。
- (3) 現職教育でICTの活用を積極的に進め、研究校視察も行い、一人一人が普段の授業で気軽に使えるまで個々の力量アップと授業変革を行う必要がある。